

# 民生委員の高齢者支援パワーに関連する要因

渡 辺 裕 一<sup>1)</sup> 安 保 尚<sup>2)</sup> 石 井 孝<sup>3)</sup>  
大 森 理 恵<sup>4)</sup> 長 田 朋 子<sup>3)</sup> 坂 本 朋 美<sup>5)</sup>  
和 光 勇 介<sup>6)</sup> 阿 部 美 紀<sup>7)</sup>

## The Factor which Relate to the Power of Minsei-iin to Support Elderly People in the Community

Yuichi Watanabe<sup>1)</sup>, Hisashi Anbo<sup>2)</sup>, Takashi Ishii<sup>3)</sup>, Rie Omori<sup>4)</sup>  
Tomoko Osada<sup>3)</sup>, Tomomi Sakamoto<sup>5)</sup>, Yusuke Wakou<sup>6)</sup>, Miki Abe<sup>7)</sup>

### 抄 録

近年、地域住民にとって最も身近な相談者である民生委員の活動に対する期待は、一層高まっている。特に地域での高齢者の生活を支援する担い手として、その期待は大きい。そこで本研究では、民生委員が持つ地域の高齢者支援のパワーを測定し、そのパワー得点に関連する要因を検討すること、そして、地域包括支援センターと民生委員との協働・連携のあり方を検討することを目的とする。

A市民生委員児童委員協議会の全民生委員を対象として実施した調査データについて重回帰分析を行った結果、「介護保険の認知度」が高いほど、地域の高齢者福祉に対する影響力意識が高いことが明らかとなった。

この結果から、地域包括支援センターと民生委員のパートナーシップ形成に向け、地域包括支援センターの社会福祉士等が各市町村や各地区で開催されている民生委員児童委員協議会に参加すること、そして、介護保険制度の説明等の情報提供を行うことの必要性が示唆されたと考えられる。

キーワード：民生委員

エンパワメント

パートナーシップ

- 1) 健康科学大学
- 2) 富士吉田市地域包括支援センター
- 3) 上野原市地域包括支援センター
- 4) 忍野村地域包括支援センター
- 5) 都留市地域包括支援センター
- 6) 富士河口湖町役場福祉推進課
- 7) 健康科学大学卒業生

## 1. 緒言

民生委員は地域住民にとって最も身近な相談者として、長い間活動を続けてきている。1917年に岡山県に設置された「済世顧問制度」や1918年に大阪府に設置された「方面委員制度」に起源をもつ民生委員制度（民生委員令；1946）は、当初は生活保護法において「民生委員令による民生委員は保護事務に関して市町村長を補助する」と規定され、市町村の行政補助機関として位置づけられていた。のちに現行制度の基礎となった民生委員法（1948年制定、1953年改正）では、民生委員の職務に「福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力する」という協力機関であることが明記された。さらに2000年の改正では「保護指導」の役割が削除され、「社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場に立って相談に応じ、及び必要な援助を行い、もって社会福祉の増進に努める」（民生委員法第1条）とあるように、「住民の立場に立つ」ことが明記され、古くからあった名誉職の規定が廃止された。

現在では、ひとりの地域住民の立場で、他の地域住民から寄せられる悩みや心配事を聞くなど、地域での生活を支える担い手として役割を期待される存在となり、地域の児童・高齢者の虐待防止ネットワークへの参加や一人暮らし高齢者の見守りおよび訪問など、社会の変化に伴って、期待される役割も多岐に渡ってきている。

しかし一方で、現代社会では過度な個人のプライバシーの尊重から、他者からの干渉に極端に神経質になることによって、民生委員の関わりを拒否する住民や転入高齢者に関する情報把握の困難さ（工藤，2005；山村，2009）が指摘されている。中尾ら（2008）は、民生委員へのインタビューによって得られた「個人にどこまでかかわるのかといった悩み」や「大変なことが多い」、「ストレスを感じる」、「活動に対する疑問などの悩みや苦労がある」、「民生委員活動は無駄だ」といったデータから、民生委員の中に「陰的感情」という活動への思いが存在していることを指摘している。

このような状況の中、近年は民生委員の活躍により一層の期待を寄せる傾向があることは否定できない。筆者らによって組織される地域包括支援センターの社会福祉士による研究会では、地域住民との窓口として、また、地域住民のネットワーク形成に向けて協働する存在として意識され、地域支援に向けた民生委員への期待が表明された。その他、高齢者虐待防止においては虐待の通報先に民生委員を挙げる地域住民も多く（柴田，2007）、地域包括支援センターが高齢者虐待防止に取り組むための高齢者虐待防止ネットワークの形成や総合相談支援事業における地域の高齢者支援ネットワーク形成に欠かせない存在であるといえよう。

民生委員が様々な困難に向き合いながら地域の高齢者福祉向上に向けたパワーを高めることは、より充実した地域の高齢者支援ネットワークの形成に必要不可欠である。地域包括支援センターはじめ地域住民の生活支援にかかわる専門職は、民生委員と連携・協働して問題解決に取り組むだけでなく、民生委員が地域福祉活動を安心して積極的に行うための環境整備やサポートを行うことが期待される。

そこで本研究では、民生委員が持つ地域の高齢者支援のパワーを測定し、そのパワー得点に関連する要因を検討することによって、地域包括支援センターと民生委員との協働・連携のあり方を検討することを目的とする。

## II. 対象と方法

### 1. 調査の対象と方法

研究会のメンバーであるA地域包括支援センターの社会福祉士を通してA民生委員児童委員協議会（以下、A民児協とする）の担当者に相談、定例民児協の際に質問紙による調査票を配布した。

調査票の回収は、地域包括支援センター社会福祉士への手渡し、もしくは返信用封筒による回答のどちらか回答者の行きやすい方法を各自で選んでいただいた。どちらの方法で回収する際にも返信用封筒への封入を依頼し、個別の回答が明らかにならないよう配慮した。

調査票は103件配布し、有効回答は56件であった。有効回答率は54.4%であった。

### 2. 分析の枠組み

#### ①従属変数

民生委員の高齢者を支援するパワーを測定する「地域住民の高齢者支援パワー尺度（10項目）」（渡辺，2008）を用い、従属変数とした。この尺度は全10項目からなる地域住民の高齢者支援に向けたパワーを測定する尺度であり、「地域の高齢者福祉に対する影響力意識」に関する因子と「地域の高齢者福祉問題の共有意識」に関する因子の2因子から構成されている。

「地域の高齢者福祉に対する影響力意識」に関する因子は「自分が頼めば、高齢者を支援する活動に参加する人を増やせると思う」「地域の高齢者福祉の問題に対して、意見をいえると思う」「地域で行われている高齢者の生活を支援する活動に積極的に参加しようと思う」「何か情報で役立ちそうなものがあったら、地域の高齢者に伝えようと思う」「地域の高齢者が困っていることを本人に代わって役場などに意見を言えると思う」「『高齢者が暮らしやすい地域』にするために自分の力が役立つと思う」の6項目、「地域の高齢者福祉問題の共有意識」に関する因子は「地域に困っている高齢者がいたら、見て見ぬふりはできないと思う」「地域の高齢者が抱えている問題は自分の問題でもあると思う」「何か地域のことを決めるときには、高齢者の意見も尊重すべきだと思う」「地域の高齢者に関係がありそうな情報には、気をつけておこうと思う」の4項目から構成されている。これらについてそれぞれ6件法リッカートスケールにて質問を行い、得点が高いほどパワーが高いと考えられる。

地域住民の高齢者支援パワー尺度の信頼性及び構成概念妥当性については、すでに検証されている（渡辺，2008）。

## ②独立変数

独立変数として「行政の広報紙（1. とてもよく読む～5. まったく読まない）」、「地域包括支援センターの認知度（1. 地域包括支援センターと一緒に仕事をしたことがある～5. 地域包括支援センターという名前をはじめて聞いた（いままで知らなかった）」、「介護保険制度の認知度について（1. とてもよく知っている～5. まったく知らない）」、「民生委員について任命されたことについての考え（1. 頼まれる前から、自分から民生委員児童委員に任命されることを希望していた～5. 頼まれた後、自分ではまったく気が進まないが、むりやり児童委員民生委員に任命された）」、「民生委員活動と関係がありそうな講演会・研修会への参加（1. いつも参加している～5. 全く参加していない）」、「性別（男性＝1）」、「年齢」、「経験年数」、「学歴（1. 義務教育（旧制高等小学校も含む）～5. 大学院（在学中も含む）」、「経済状況（1. 家計にとてもゆとりがある～4. 家計にまったくゆとりがない）」を使用した。

## ③分析の方法

これらの従属変数と独立変数について、重回帰分析を行った。分析にはPASW Ver. 17を使用した。

# III. 結果

## 1. 「パワースケール10項目」、「影響力意識」、「共有意識」の得点分布

図1～3に各得点の分布を示す。「パワースケール10項目」の平均得点は45.07、標準偏差は5.105、「影響力意識」の平均得点は26.00、標準偏差は3.887、「共有意識」の平均得点は19.15、標準偏差は1.818であった。

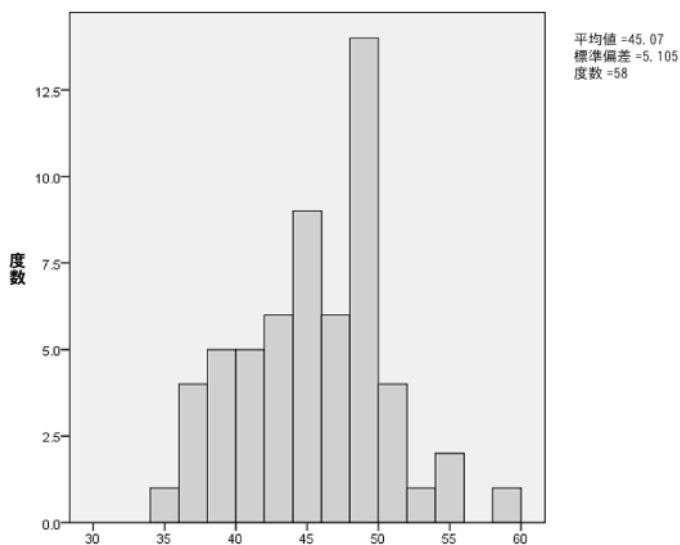


図1 パワースケール10項目

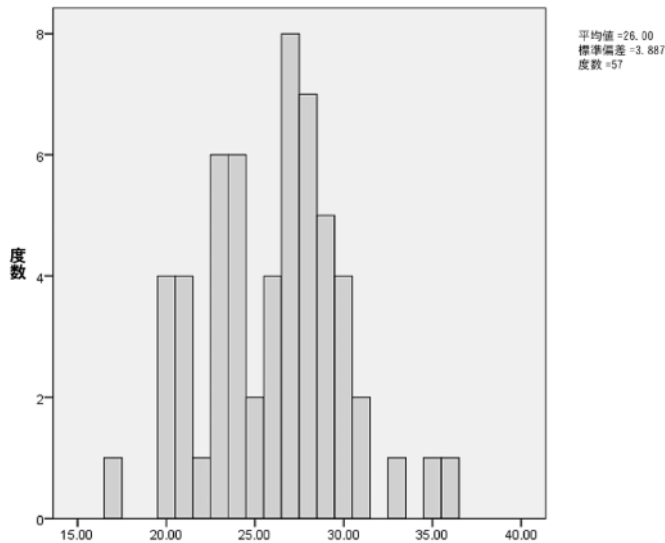


図2 影響力意識

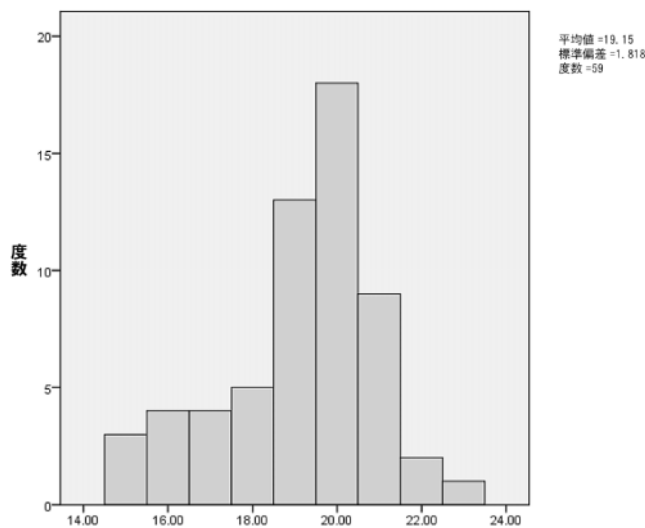


図3 共有意識

## 2. 重回帰分析の結果

それぞれの従属変数について重回帰分析を行った。

重回帰分析の結果（表1）、「パワースケール10項目」を従属変数とした分析では、介護保険制度の認知度が高い民生委員はパワースケール10項目の得点が有意に高いことが明らかになった。また、「影響力意識」を従属変数とした分析では、介護保険制度の認知度が高い民生委員は影響力意識の得点が有意に高いこと、男性の方が女性に比べて影響力得点が有意に高いことが明らかになった。「影響力意識」に関する分析において回帰式の全体的な説明力を示す調整済み決定係数の値は.540と高く、独立変数の高い説明

表1 パワースケール(10項目)・影響力意識・共有意識を従属変数とした重回帰分析の結果

	パワースケール 10項目		影響力意識		共有意識	
	$\beta$	t	$\beta$	t	$\beta$	t
行政の広報紙	.004	.031	.038	.330	-.060	-.353
地域包括支援センターの認知度	-.176	-1.325	-.180	-1.546	-.210	-1.222
介護保険制度の認知度について	-.304	-2.413**	-.312	-2.827**	-.180	-1.103
民生委員に任命されたことについて	-.080	-.537	-.077	-.585	-.041	-.217
民生委員活動と関係がありそうな講演会・研修会への参加	-.064	-.503	-.133	-1.186	.073	.463
年齢	.130	.768	.161	1.079	.013	.059
性別(男性=1)	.196	1.535	.224	2.035*	.033	.208
経験年数	.176	1.172	.178	1.359	.053	.280
学歴	-.032	-.249	-.077	-.685	.051	.335
経済状況	-.152	-1.079	-.185	-1.498	-.057	-.314
調整済み決定変数	.390		.540		-.042	
F値	4.454**		7.215**		.780	
N	55		53		56	

注) \*\* $p < 0.01$ , \* $p < 0.05$ , + $p < 0.1$

力が認められた。

一方、「共有意識」を従属変数とした分析では、有意な影響力を持つ変数は認められなかった。調整済み決定係数の値も低く、今回の分析で用いた独立変数で「共有意識」を説明することの意味は認められないという結果であった。

#### IV. 考察と今後の課題

民生委員は歴史の中で、行政の「補助機関」そして「協力機関」として位置づけられてきた。しかしその一方で、「協力機関」としての行政からの期待に応え、その活動を継続する努力や住民の声に耳を傾ける役割の大変さや難しさから負担感やストレスが高まり、民生委員の委嘱を断る場合も多く、担い手を見つけることが困難な状況も聞かれている。民生委員を協力機関として位置づける行政機関や民生委員と活動をともにする社会福祉協議会には、民生委員への直接的・間接的アプローチによって負担感やストレスを緩和すること、民生委員の機能を維持すること、また、より一層高めることができるサポートが期待されると考えられる。

ここでは、「地域の高齢者を支援するパワーを高める」という視点から検討した本研究の結果から、民生委員との協働や連携のあり方を考えたい。

分析の結果からは、民生委員の介護保険制度に関する認知度が高いほど、地域の高齢者福祉への影響力意識を強く持っていることが明らかになった。つまり、民生委員が介護保険制度の内容や手続きを十分に理解できるように働きかけることによって、民生委員の高齢者を支援するパワーが高められる可能性が示唆されたといえよう。同時に、積極的に介護保険制度などを理解して地域住民の相談に役立てようという民生委員は、「地域の高齢者福祉への影響力意識」が高いと考えられる。民生委員の高齢者支援パワーを高めるために、多くの民生委員が役割の遂行に前向きになれるような働きかけが期待されるといえよう。

筆者らによる研究会では、プライバシーの問題をはじめとする様々な活動上の困難に直面することによって潜在化されている可能性がある民生委員のパワーに気づき、強化するエンパワメントの視点で民生委員と地域包括支援センターとの協働を検討してきた。両者のエンパワメントに向けて、相互に対等な立場であることを前提としたパートナーシップに基づく関係づくりが重要であるが、実際には難しい状況もある。民生委員に依頼される業務が拡大する一方で、民生委員への活動費及び実費弁償費は高くなく、「お手伝いの提供増加」と「活動費及び実費弁償費の低さ」というアンバランスな状態が続くことによって「不平等な相互依存関係」が形成されていることが指摘されている（森，2004）。この「不平等な相互依存関係」は、民生委員からの「やってあげている」という意識と行政側の「やってもらっている」という意識をもたらし、相互に十分なパートナーシップを形成できない状況が生み出されているのではないだろうか。

森（2004）は、民生委員を単なる「お手伝いさん」から「ボランティア」としてより主体的な側面を強調しようとすることは、行政機関と民生委員のパートナーシップ形成を志向する重要な作業であると指摘している。

本研究では、民生委員のエンパワメントに向けた働きかけとして、介護保険の認知度や理解を高めるサポートや民生委員の役割遂行に向けた前向きな気持ちを高めることの重要性が明らかにされている。それは、「ただ依頼をするだけ、されるだけ」「質問や相談が来るのを待っているだけ」という関係ではない。例えば、地域包括支援センターの社会福祉士等が各市町村及び各地区の民生委員児童委員協議会のメンバーとして参加し、制度等の情報を伝えていくことは、地域包括支援センターと民生委員がお互いの存在を認め合い、パートナーシップ形成を志向する作業として重要であるということが、分析の結果から考察されるといえよう。

地域包括支援センターと民生委員がパートナーシップを形成していくための具体的な方法の検討やそのアプローチの効果測定などについては、今後の検討課題としたい。

## 謝辞

本調査・研究を実施するにあたり、数多くの民生委員の皆様、および行政関係者の皆様にご協力をいただきました。ここに心より感謝申し上げます。

本研究は、文部科学省科学研究助成費若手研究Bにより実施いたしました。

## 文 献

---

- 工藤禎子，転入高齢者への民生委員の関わりの実際と支援のあり方，北海道医療大学看護福祉学部紀要，No. 12, 2005.
- 柴田益江，愛知県I市における高齢者虐待調査から，愛知文教女子短期大学研究紀要，29, 2007.
- 中尾理恵子，川崎涼子，杉山和一，長崎市内民生委員の活動のモチベーション，保健学研究，20 (2), 2008.
- 森裕亮，行政協力システムにおける行政機関と住民との関係—民生委員制度を題材に—，同志社政策科学研究，5, 2004.
- 山村史子，小地域における民生委員の役割に関する考察—情報収集の困難性をめぐって—，桜花学園大学人文学部研究紀要，第11号，2009.
- 渡辺裕一，地域住民の高齢者支援パワー尺度の作成における構成概念妥当性の検討，人間関係学研究（大妻女子大学人間関係学部紀要），10, 2008.



## Abstract

Minsei-iin is a supporter of community residents' life who commissioned by Minister of Health, Labour and Welfare without pay. They have been hoped to support elderly people in the community. Recently, the expectation toward them has been mounting.

This study aims to define the factor which relate to the power of *Minsei-iin* to support elderly people in the community.

Research by questionnaire was completed by the all members of the *Minsei-iin* conference in town A. The date showed when *Minsei-iin* have more knowledge of long-term-care insurance, they are more conscious of their influence over the elderly welfare in the community.

By the results of date analysis, suggests that social workers and *Minsei-iin* should make a good partnership. To enhance the power and to make a partnership with *Minsei-iin*, social worker should attend to the *Minsei-iin* conferences and explain long-term-care insurance as well as other systems.

Key Words: Minsei-iin  
empowerment  
partnership